

第 47 回日本体外循環技術医学会 九州地方会 大会開催の報告

この度 2022 年 6 月 18 日（土）に、日本体外循環技術医学会（JaSECT）※1※2 九州地方会主催による第 47 回日本体外循環技術医学会 九州地方会大会が web 形式にて開催されましたので、大会長の清水重光さん（臨床工学部）より、ご報告いただきます。



本大会は、本来、2021 年 6 月福岡県飯塚市のがみプレジデントホテルにて現地開催の予定でした。COVID-19 の感染拡大により前回大会が1年延期となり、更に 2022 年 4 月の JaSECT 九州地方会運営審議会において検討の結果、変更期限直前まで対面開催にて準備を進めてまいりましたが COVID-19 の高止まりもあり、web 形式にて開催する運びとなりました。大会当日の参加者数は、約 150 名と多くの方々にご参加いただきました。

大会のテーマは「**KIKIKANRI.**」といたしました。近年医療安全がより重視され危機管理という言葉をよく耳にするようになりました。業務の標準化を推奨することも込められています。また飯塚病院は医療機器管理部門（現臨床工学部）を発足し今年で 33 年目に入り全国でも先立って医療機器管理（人工心肺装置を含む）を行ってまいりました。このことより「**KIKIKANRI.**」と掛けて選ばせていただきました。

大会プログラムといたしましては、特別講演として当院心臓血管外科 部長 内田孝之先生より「弓部大動脈瘤治療の変遷と体外循環」というタイトルにて人工血管置換手術における変遷と体外循環使用時の注意点工夫について講演いただきました。教育講演では当院特任副院長 医療安全推進室 福村文雄先生より「体外循環における安全管理と危機管理を考える～品質は工程で作り込み～」というタイトルで心臓手術をより安全に行うための内容で講演いただきました。シンポジウムではテーマ「**TONARI NO PUMP**」と題し、11 施設の人工心肺装置を自慢していただきました。他施設の人工心

肺装置は学会でも発表スライド等でしか見ることができず、レイアウトの工夫や相違を発表していただくことで、有効な情報収集になると考えました。何よりも私自身興味があり企画いたしました。本来であればシンポジウムと合わせて写真のポスター展示も考えており、奥深く人工心肺装置の旨みを参加者に感じてもらいたかったのですが本当に残念でした。

今回は web 形式での開催になりましたが、またいつか対面で開催できることを願います。

最後に、web 開催にあたり準備や運営に臨床工学部スタッフが大変頑張ってくれました。Zoom リハーサルも何回も行いました。このことにより大会もスムーズに進行し、多方面からもたくさんのお褒めのお言葉をいただきました。特に Zoom による web 開催にあたっては情報システム室（和気様、前田様）に多大なる協力をいただき大変感謝いたします。

また JaSECT 地方会幹事の皆様をはじめ、会員の皆様、関係者の皆様、そして企業の皆様に心より感謝申し上げます。

※1 日本体外循環技術医学会とは、<https://jasect.org/99> 日本体外循環技術医学会（JaSECT：The Japanese Society of Extra- Corporeal Technology in Medicine）は、1976 年 2 月に発足し、会の目的は、設立当初から、体外循環に携わる医療関係者の学術団体として「体外循環技術に関連する研究の進歩ならびに普及をはかり、これを通じて学術文化の向上、医療の進歩発展に寄与すること」であり、現在もその活動趣旨は変わらず、基礎的・臨床的技術の向上を目指した教育、調査、研究等の学術活動を展開している学会です。

※2 日本体外循環技術医学会 HP <https://jasect.org/>